

○ 委員長報告

9月定例本会議で報告された農林水産委員長報告は、以下のとおりです。

令和6年9月定例会

農林水産委員長報告

報告いたします。

当委員会に付託されました議案の審査結果は、お手元に配付されております委員会審査報告書のとおりでありまして、原案のとおり可決決定されました。

以下、審査の過程において論議された主な事項について、その概要を申し上げます。

まず第1点は、ため池の防災・減災対策についてであります。

このことについて一部の委員から、ため池の防災対策と未利用ため池の廃止対策にどのように取り組んでいるのかとただしたのであります。

これに対し理事者から、県では、決壊時に人的被害の恐れのある防災重点ため池1,751か所を選定し、改修等が必要なため池の老朽化対策や耐震化対策などのハード整備を計画的に進めるとともに、緊急時の迅速な避難に繋がるソフト対策を総合的に講じており、ため池サポートセンターにおいても、日常的に管理状況等の点検や管理者からの相談対応を行うなど、関係機関等と連携して防災対策に取り組んでいる。

また、利用されていないため池については、市町や管理者と連携し、利用状況に応じた廃止等の対策に取り組んでおり、昨年度末までに11か所を廃止したほか、今年度は8か所の廃止を予定している旨の答弁がありました。

第2点は、本年産のかんきつについてであります。

このことについて一部の委員から、本年産かんきつの生産・販売状況はどうかとただしたのであります。

これに対し理事者から、本年産の温州みかんは、裏年傾向のため生産量は前年比93%とやや少なめを予想しているが、中晩柑は、前年比103%の生産量を見込んでいる。極早生みかんは、販売を開始した先月中旬には、高温による着色遅れなどから、出荷量が例年の半分以下となったが、今後、本格的な収穫の時期を迎えるため、生産量は前年比92%を見込んでいる。

また、県産極早生みかんの京浜市場の価格は、先月中旬で1kg当たり332円と前年比113%、ハウスみかんも5月中旬からの平均価格が前年比104%の1kg当たり1,001円と順調である。

今後も高品質・安定生産に向け、樹上選果や腐敗防止対策等の基本管理の徹底などにJA等と連携して取り組み、愛媛ブランドの維持に努めたい旨の答弁がありました。

第3点は、水産振興の取組方針についてであります。

このことについて一部の委員から、媛スマ事業の現状はどうか、また、今後、水産振興にどう取り組むのかとただしたのであります。

これに対し理事者から、飼料高騰や競合魚種の価格変動など事業環境の変化により、媛スマの生産者は減少したが、媛スマは市場の評価が高く、引き合いも強いため、今後、様々な課題を踏まえた生産技術の試験研究に取り組むとともに、販売戦略を見直すなど、生産者等とも連携しながら、生産、販売の両面で更なる振興に努めていきたい。

また、本県の養殖魚はブリ、タイが全体の9割を占め、浜値に左右されやすい状況であるため、県では、ブランド価値を高め、高値での取引が見込める魚種を増やすことが重要と考えており、スマやサバなどの有望魚種の安定生産に向けた、研究、技術開発に積極的に取り組み、水産振興につなげていきたい旨の答弁がありました。

このほか、

- ・高温による農作物への影響
- ・スマート農業の普及推進
- ・県産はだか麦の需要拡大
- ・森林環境譲与税の活用状況
- ・漁港の防災・減災対策

などについても、論議があったことを付言いたします。

以上で報告を終わります。